

様式(細則 5-2)

令和 元 年 11 月 14 日

浜田市議会議長  
川神 裕司 様

議員名 上野 茂



## 調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

### 記

1. 期 間 令和 元年 10 月 31 日 (木)

2. 視察内容  
コミュニティースクールの取り組みについて

3. 視 察 先  
益田市立豊川小学校

3. 参 加 者 佐々木豊治、柳楽真智子、三浦大紀、上野茂

5. 調査研究活動の概要

別紙に記載





## 益田市立豊川小学校

### コミュニティースクールの取り組みについて

大石校長・社会教育コーディネーターの市川恵・益田市教育委員会大畑伸幸推進  
監他

#### ○ 大石校長先生から

豊川小学校は児童数 31 名。学校経営の柱、特色としてコミュニティースクールの取り組みをしている。指定されて 5 年目になり、より具体化するために 1 年後に社会教育コーディネーターの市川恵さんが赴任された。

#### ○ 社会教育コーディネーターの市川恵さんの話

・益田市豊川地区では人口が減る中で、なんとか地域に小学校を残したいとの思いで、公民館、連合自治会、民生児童委員、青少年育成市民会議、保育園、放課後児童クラブ、小学校、中学校、PTAなどで「豊川地区つろうて子育て推進協議会」を設立し、月 1、2 度公民館に集まり子どもたちの最近の様子などが話し合われている。

・もともと H24 年廃校になりそうとき地域みんなが抵抗され、自分たちの地域の子どもは自分たちで見たいこうと立ち上がった。その活動が基盤でありまとまっている。

・豊川小学校は立地的に良い場所で、近くに公民館、保育園が隣接し、人の行き来がしやすく連携した活動がしやすい、そこへ社会教育コーディネーターが配置され取り組む環境が整った。

・地域のよりどころとなる交流スペースが学校内にあるのが特徴で、壁紙、テーブル、椅子など手作りのものなどが多くみられた。これも地域の人と一緒にアイデアを出し合いながら作られたものである。

・平成 28 年から社会教育コーディネーターを配置。臨時職員やパートでなく、個人事業主として契約し、小学校の職員室に机があり、学校や子供の様子が把握でき、教職員への提案など一緒に教育活動ができる。

・中学生は学校の帰りに公民館により地域とつなげる場になっている。そのことで地域の中で体験したことの喜びや、必要とされていると感じる。

・地域の祭りに子供達で店を出している。

・中学生にも学校の壁紙を選んでもらい貼り替えた。

・子どもたちも地域の一員として体験できることが求められている。自分達も地域を変えられると思う心を育てることに繋がる。

#### ○ 益田市教育委員会大畑伸幸推進監

・中学校に行って他の生徒との違いが出ている



- ・ 益田市の統廃合の考えは、小学校は地域に残し中学校は統廃合する  
小学校は地域全体で子どもを育てる考え方
- ・ 将来U， I ターンが来る可能性を持たせるような学校づくりをしている。
- ・ 学校教育と社会教育をどうミックスし、将来益田市を思い貢献する子どもを育てる事業。
- ・ 豊川小学校の取り組みが益田市の施策の大転換のきっかけとなっている。議会や市の抵抗もなく、日本のモデルになっている・
- ・ この取り組みによりU I ターンにつながる取り組みと考える。
- ・ 今後は社会教育コーディネーターがいなくなっても持続できることが大事である。
- ・ 地域と共有すること、社会に開かれた学校にすることが大切である。

#### 「所感」

豊川地区では小規模校でも地域にとっては大切な小学校であり、みんなで子どもを守り育てたいとの熱い思いを感じた。 学校を中心にした地域コミュニティー、これからの地域づくり、まちづくりの参考になった。 文科省の指針に「小さくても地域の実態に合わせて学校を残すことはあり。ただし子どもたちの教育に不利にならないように教育委員会は配慮」とあり、地域で子どもを守り育てる取り組みは、生徒数が減少する中、地域の力を学校運営に生かすことが今後、最も大切なことで、 浜田市においても統廃合の検討がされているなか、益田市の取り組みを参考に検討する必要があると強く感じた。